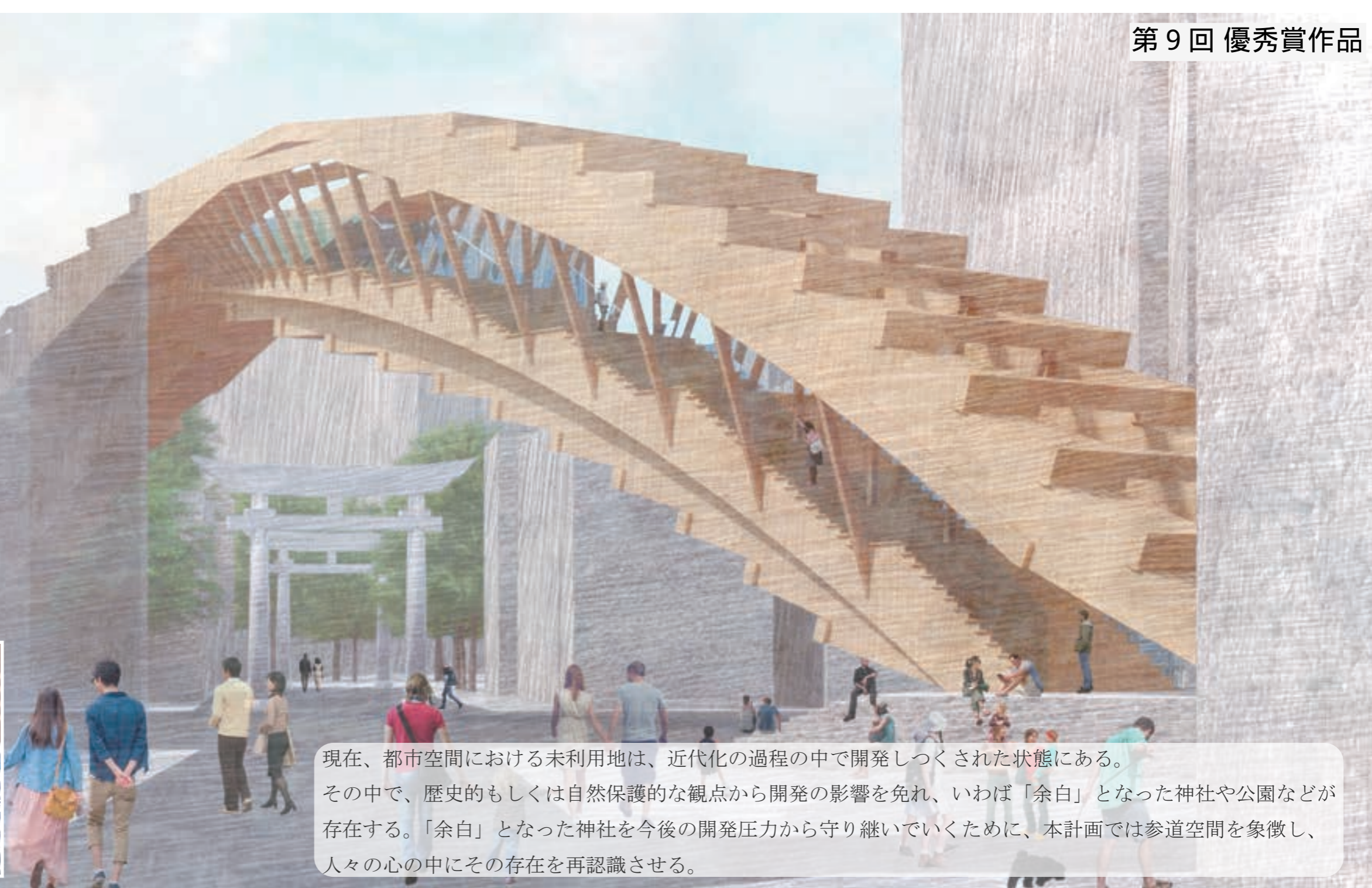


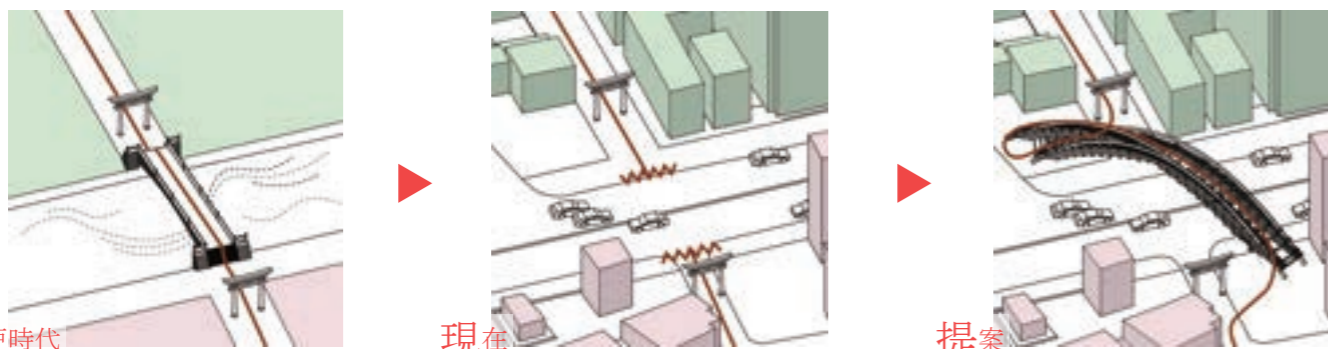
# 聖 俗

参道  
をつなぐ歩道橋



現在、都市空間における未利用地は、近代化の過程の中で開発しつくされた状態にある。その中で、歴史的もしくは自然保護的な観点から開発の影響を免れ、いわば「余白」となった神社や公園などが存在する。「余白」となった神社を今後の開発圧力から守り継いでいくために、本計画では参道空間を象徴し、人々の心の中にその存在を再認識させる。

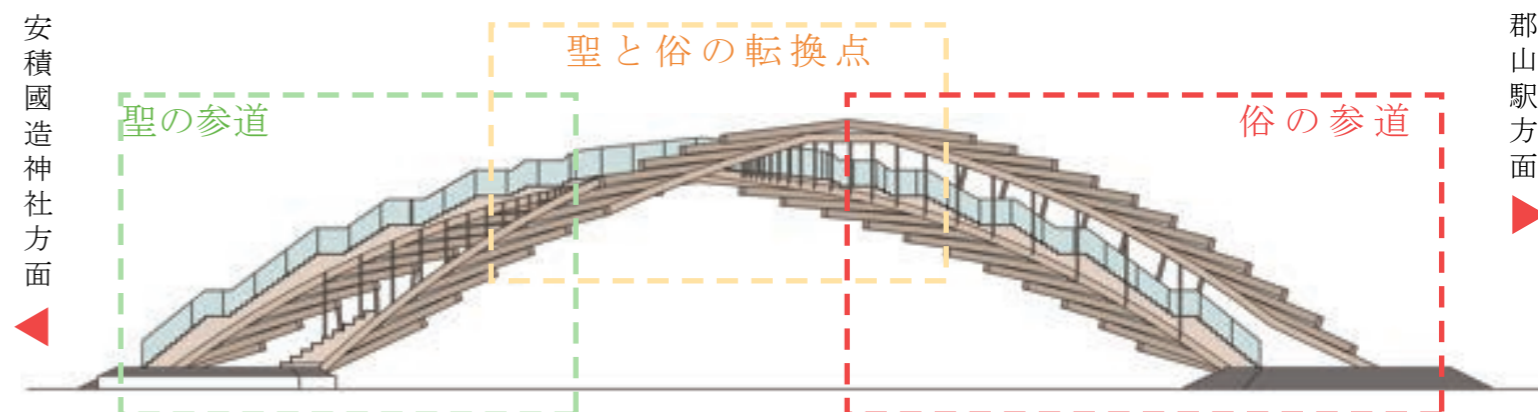
## 零 歴史と現状 —安積國造神社の参道—



今回対象とした敷地には、緑に囲まれた安積國造神社が鎮座する。この神社は、江戸時代の建築物として現存している。江戸時代には、「聖」を象徴とする安積國造神社と商いが行われる「俗」は川で分けられ、「鏡橋」と名付けられた橋で結ばれていた。現在、かつての川の位置には県道17号線が存在し、神聖な地の「聖」と商いの「俗」を結ぶ参道は分断されている。ここに新たな歩道橋を架け参道を視覚化する。

## 壱 提案Ⅰ —聖と俗をつなぐ歩道橋—

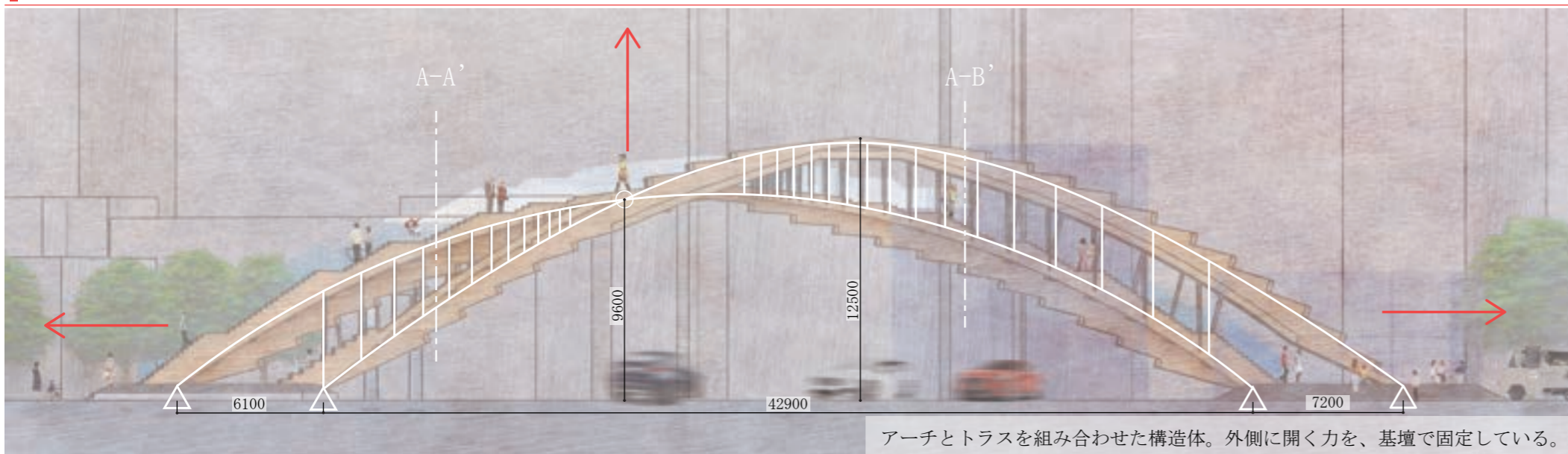
県道で分断された参道。構造体が聖と俗の方向から伸び交わることで、参道を結び直す。俗の参道は「閉ざされた空間」で、聖の参道を進むにつれ「開かれた空間」となり、人々は領域の変化を体感する。



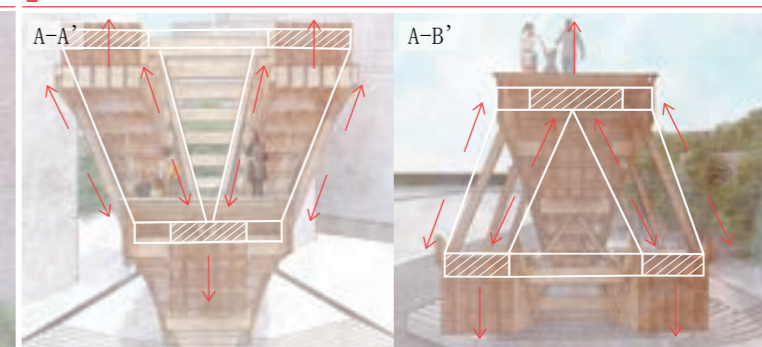


## 式 構造計画 — 3本の軸からなる構造体 —

### 歩道橋全体の構造計画

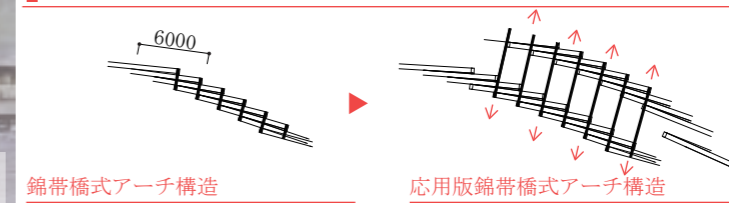


### 木造トラス × 格子



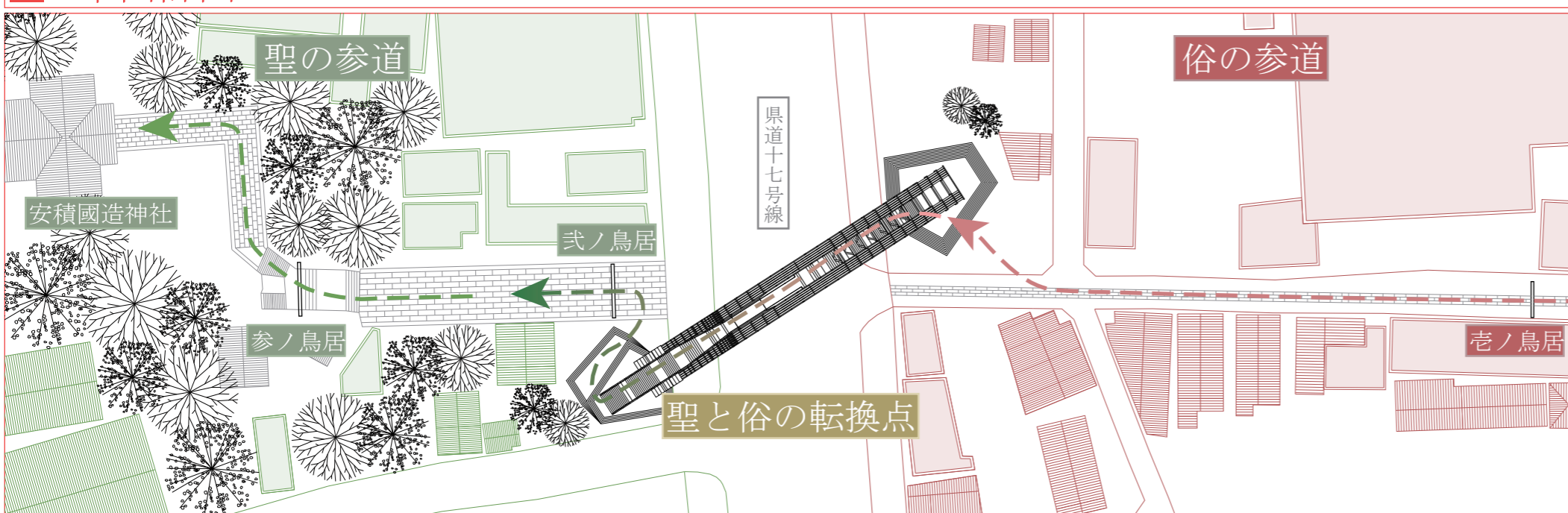
木造トラスと格子の引張力で、上部の迫持式構造の跳ね上がる力と下部の迫持式構造の沈み込む力を支える。主となる「3本の軸」があることで、荷重を分散し、意匠性を確保することができる。

### 応用版錦帯橋式アーチ構造



従来の錦帯橋式アーチ構造は巻金で束ねて固定していたが、今回はその巻金の役割をトラスと格子が担っている。

## 参 平面計画 — 周辺に呼応する歩道橋 —



## 肆 外構計画 — たまり場の二面性 —



## 伍 提案II — 聖と俗で切り替わる空間構成 —

